

ダンボールの可能性をあらゆる角度から追求

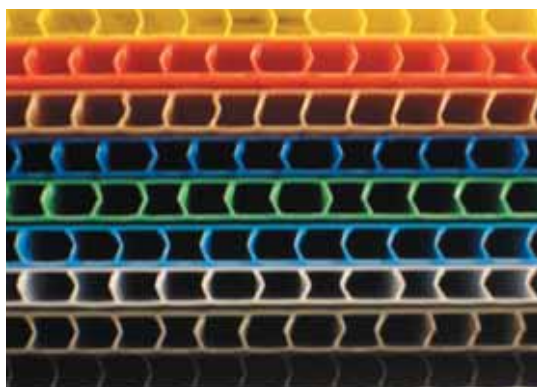


城東紙器株式会社

「プラスチックダンボール」で 新市場を開拓

昭和35年創業の城東紙器。名付け親は、ダンボールの生みの親である井上貞治郎氏。同氏の一言をきくか、に岩崎隆社長の父親が立ち上げた。「ダンボールの基本はオーダメイドです」と語る岩崎社長。「青果品にしる家電製品にしる、梱包する製品に合わせて設計するのが当たり前」であり、各種メーカーからは、「この商品を梱包するにはどんな形がいいか」、「梱包して1mの高さから落としても製品が壊れない包装設計をしてほしい」等の依頼が舞い込んでくるのだ。

そうした依頼に半世紀近く応え続けてきた同社が、現在力を入れているのが、PP（ポリプロピレン）を素材とした「プラスチックダンボール」だ。紙と比べ格段に耐久性・耐水性に富む上に、ダンボール同様、木



型で製作するため安価であり、金型から作られるほかのプラスチックケースに比べるとはるかに寸法変更がしやすい。現在、工場間の相互輸送に使用される「通い箱」として等、繰り返し使用される場面で大いに力を発揮している。

ただ岩崎社長は、「他にもニーズは確実にある」と話す。例えば、自転車レースに出場する選手が、マシンを運ぶ際の梱包用としてだ。航空会社等もダンボールの梱包材は揃えているが、数回で使用に耐えられなくなってしまう。その点、プラスチックダンボールは繰り返し使用はもちろん、マジックテープやヒモを付ける等のオーダメイドも可能なため最適なのである。このように「眠っているニーズを掘り起こし、新たな市場を拡大していきたい」と岩崎社長は今後の展望を語る。

より良い提案に向けた 「城東アーカイブス」

「当社は全員が営業マン。お客様の困っていること、本当にやりたいことをいかにくみ取り形にするかが重要。営業マンがディレクターであり、ベストな商品提供することが使命」と話す岩崎社長。そのため現在、同社が実現に向け取り組んでいるのが「城東アーカイブス」だ。ウェブ上に社員専用のアーカイブを設け、同社が長年蓄積してきた梱包ノウハウを、製品写真をはじめとした製作実例の詳細、さらには展開図面等とともに掲載。顧客との商談の場で様々な事例をわかりやすく示すことで、

よりの確なヒアリング、より確実な製品製作につなげる狙いだ。また、各営業マンがいつでも勉強できるツールとしても期待は大きい。

「価格競争で勝つのではなく、オリジナルの商品、商材で勝負したい」との言葉通り、「ダンボールデザイナー アイデアコンテスト」を主催したり、ダンボールを使った集客ポップ、什器、ショーケースのより良い展示の仕方や販売促進の提案も手がけたり……。城東紙器はあらゆる角度からダンボールの新たな可能性を追求し続けている。

主な事業内容

ダンボールケースの製造、各種化粧パッケージの製造、梱包請負事業、包装設計からデザイン提案等



岩崎 隆さん
代表取締役

城東紙器株式会社

Company
Profile

住所 / 〒581-0039
大阪府八尾市太田新町1-285
設立 / 昭和35年9月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 60名（平成21年1月現在）
TEL / 072-948-5505
FAX / 072-948-5522

ISO 9001
ISO 14001

関西
20

大阪
18

<http://www.jotosiki.co.jp/>